いつだって好奇心　手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します㊳

問社会教育課　☎・有(582)1142　FAX(581)2733

玉津小学校

「読み聞かせと語り部さん」

玉津小学校では、読み聞かせボランティア「玉津ひばり文庫」の人に来てもらい、第2、第3金曜日に読み聞かせ会を開催しています。また、第1金曜日には「玉津語り部」の皆さんに、玉津学区に伝わるお話をしていただいています。

10月4日には、2年生に向けて、赤野井町にある「大庄屋諏訪家屋敷」について、その歴史や四季折々に合わせた屋敷の魅力について、聞かせていただきました。

昔から伝わる玉津のお話に親しむことで、子どもたちは自分の住む地域に愛着を持ち、地域を大事にする心情が育っています。

学校司書

「中学校の図書館から」

昼休みの学校図書館には、チャイムとともに駆け込む子、毎日のように本を借りる子、読書の世界にひたる子、友達と本を手に取りおしゃべりに興じる子、カウンター当番に面白い本を尋ねる子などさまざまに図書館を楽しむ姿があります。また図書委員会では、おすすめ本紹介、購入希望図書調査、各種コンテスト、手作りしおりのプレゼントなど工夫を凝らした熱心な取り組みが行われています。

学校生活の中ではほかにも、朝読書、調べ学習、ビブリオバトル、市立図書館の出張ブックトークなど本に親しむ機会があります。子どもたちに、本との出会いや友達との共感から多くの学びを得てもらいたいと願っています。

佐川美術館
アートコラム㉙

神秘的な青～平山ブルー～

佐川美術館
学芸員：藤井康憲

私たちの目を楽しませてくれる色彩豊かな美術作品。色調によって感情の変化や時間、季節のうつろいを表すなど、色は芸術家にとって最も重要なエッセンスの一つになります。その中でも青色は多くの芸術家を魅了し続けてきた色の一つで、江戸時代の浮世絵師・葛飾北斎や歌川広重も好んで青系の色彩を用いており、〝北斎ブルー〟や〝広重ブルー〟などと称されることがある程です。

日本画家・平山郁夫も神秘的な青色に彩られた作品を数多く描いています。私たちが〝平山ブルー〟と呼ぶ色鮮やかな青色は、宝石としても使われるラピスラズリやアズライトといった天然の岩石を砕いて作られた岩絵具によって表現されています。砕かれた岩石のすりつぶし方によって色が微妙に変化し、粒子が粗いほど濃く、細かいほど淡くなることから、同じ作品の中でも色調が少しずつ異なっており、平山のブルーへのこだわりがうかがえます。

瀬戸内海にうかぶ生口島(広島県尾道市)で生まれた平山は幼いころより海を眺め、そこで育まれた感性が画家としての色彩感覚を生み出したといいます。幼少期に見た神秘的な海の青は、やがて平山作品の代名詞ともいえる色鮮やかなブルーの表現へと変貌を遂げたのです。

現在、佐川美術館では平山郁夫美術館が所蔵する「瀬戸内しまなみ海道」を描いた故郷の風景作品を中心に、さまざまなブルーで表現された作品を公開しています。ぜひ、神秘的な平山ブルーの世界をご覧ください。